

大垣市(北陸圏・中部圏ブロック)

【計画期間 平成27年12月～33年3月】

- ・ 戦後、豊富な地下水に恵まれ繊維業をはじめとする産業集積により西濃地域の拠点として集客力を発揮してきた。
- ・ 平成8年にソフトピアジャパンが整備され、情報産業の拠点となっている。
- ・ 人口162,407人(平成27年10月31日現在) 面積206.57Km²

【前計画の概要】

○奥の細道むすびの地などの観光拠点の整備や四季の路、美濃路などの景観資源を最大限に活用し、まちなかの回遊性を高める。また、駅南口の市街地再開発事業による新たな居住施設を供給するほか、中心市街地での住宅取得を促進する施策を実施している。

(計画期間:平成21年12月～平成27年11月)

【中心市街地の変化】

○奥の細道むすびの地記念館の整備や元気ハツラツ市の開催により、来街者が増加し、にぎわいの創出が図られた。
○休日歩行者・自転車通行量については、目標達成に至ったものの、中心市街地人口については、社会動態による減少と高齢化率の増加により未達成。

【目指す中心市街地像】

歩いて楽しめるとともに住みやすく便利な「大垣らしい」魅力を発揮し、まち全体でにぎわいを創出する。

■前計画の目標

目標	指標	基準値(H20)	目標値(H26)	最新値(H26)
にぎわいの創出	休日歩行者・自転車通行量	9,400人	9,700人	10,125人
まちなか居住の推進	中心市街地人口	9,414人	9,537人	8,330人

■新計画の目標

目標	指標	基準値(H26)	目標値(H32)
にぎわいの創出	休日歩行者・自転車通行量	12,189人	12,688人
まちなか居住の推進	中心市街地人口	8,330人	8,430人
空き店舗の減少	商店街振興組合連合会内 空き店舗数	36店舗	27店舗

にぎわいの創出

- 【主要事業】
- ・中心市街地商店街元気ハツラツ市事業
 - ・新庁舎建設事業
 - ・大垣駅南街区広場整備事業
 - ・大垣駅南口エスカレーター整備事業
 - ・観光客誘客促進事業
- など

まちなか居住の推進

- 【主要事業】
- ・大垣駅南街区第一種市街地再開発事業
 - ・大垣住まいるサポート事業
 - ・郭町東西街区市街地再開発検討事業
 - ・まちなか住宅取得支援事業
 - ・マンション建設(東外側町)
- など

空き店舗の減少

- 【主要事業】
- ・中心市街地リフレッシュサポート事業
 - ・商店街魅力発信事業(まちゼミ)
 - ・中心市街地個店魅力アップ事業
 - ・中心市街地小規模商業施設設置奨励補助金
- など

大垣市中心市街地活性化基本計画の事業概要

にぎわいの創出

① 中心市街地商店街元気ハツラツ市事業

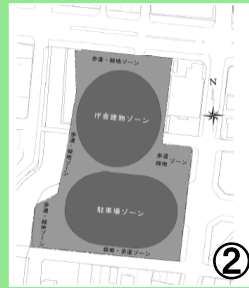
毎月第1日曜日に、商店街が中心となって駅北大型店や市民団体などと連携し、中心市街地のにぎわい創出及び各商店の売上向上を図るイベントを開催する。



①

② 新庁舎建設事業

市役所本庁舎の建て替えに伴い、JR大垣駅を起点とし、商店街、大垣城、市役所、奥の細道むすびの地へと続く中心市街地の回遊性やにぎわい創出に努めるため、市民コミュニティスペース、緑地、歩道等を一体的に整備する。



②

新庁舎建設事業イメージ

○ 大垣駅南街区広場整備事業

大垣駅南街区再開発ビルの東側に、地域住民などが集う広場を整備し、中心市街地のにぎわい創出及び住環境の改善を図る。

まちなか居住の推進

③ 大垣駅南街区第一種市街地再開発事業

大垣駅南口の正面に位置する区域に再開発ビルを建設し、住宅、商業施設などの複合施設を整備する。



③

大垣駅南街区第一種市街地再開発事業イメージ

○ 大垣住まいるサポート事業

子育て世代を中心とする世帯の定住・移住を促進するため、住居取得費用に対する利子補給および転居費用の一部助成を行う。

空き店舗の減少

④ 中心市街地リフレッシュサポート事業

中心市街地内の空き店舗を解消するため、店舗改装費及び賃借料の補助を行う。



④

○ まちゼミ

店主が講師となり、お店の専門性を生かした少人数制の講座を開催する。

